

『厚岸町再生可能エネルギーゾーニングマップ（原案）』に対する意見と回答内容

番号	いただいた意見	町からの回答	マップ内容の修正有無
1	<p>バイオマスは、燃料（資源）が不足・枯渇しないように配慮が必要である。</p> <p>また、バイオマスを発電ではなく、熱利用してはどうか。例えば、ハウス栽培による野菜（レタスやイチゴ等）の通年栽培、シイタケの乾燥、牡蠣やサンマのくん製、浴場などでの温水利用が考えられる。</p>	<p>ご指摘のバイオマス資源は、「木質バイオマス」と想定し、回答いたします。</p> <p>本ゾーニングでは、町内で発生した間伐材をはじめとする林地未利用材を地域で活用するため、多くのバイオマスを必要とし、町外からの資源調達が想定される「発電での利用」ではなく、まずは地域家庭や公共施設における「熱利用」を想定しました。</p> <p>町内での木質バイオマス資源の利用が拡大することで、将来的に農業やその他の分野での活用が期待されます。</p>	無
2	<p>再生可能エネルギーの促進だけでなく、省エネの推進についても考えてみてはどうか。</p>	<p>省エネの推進についても重要であると考えており、令和6年（2024）3月に策定した「厚岸町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」では、省エネ及び再エネ推進によるゼロカーボン達成を目標としています。</p>	無
3	<p>エネルギーの変換率は、太陽光パネルで30%、太陽熱温水器で70%とのこと。</p> <p>屋根の上で作った温水は、風呂、台所や洗濯など生活用水の一部として使用できる。</p> <p>不凍液にすれば暖房に活用でき、灯油の節約につながるのではないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、太陽熱の利用についてもエネルギー使用量の削減につながります。</p> <p>寒冷地でも凍結しにくい真空管式の太陽熱設備なども開発されていますが、導入コストの高さが課題になっています。</p> <p>今後、国内での普及率向上による低コスト化が進むことが期待されます。</p>	無
4	<p>ヨーロッパの高断熱住宅では、冬でもろうそく一本で部屋が暖まるというような話もある。</p> <p>町内でも高断熱住宅を建築・改築すれば夏は涼しく、冬は暖かく、灯油や電気の使用量も減らすことができるのではないか。</p>	<p>近年、高断熱、省エネ住宅であるZEH（※）への関心が高まっています。</p> <p>町内でも公共施設、住宅の建て替えや改築時には高断熱、省エネ性能の高い設備・施設へ転換していくことが重要と考えています。</p> <p>（※Net Zero Energy House：建築物における年間での一次エネルギー消費量を、建築物・設備の省エネ性能向上、発電設備などの創エネルギーの導入により、ゼロまたは概ねゼロとなる建築物）</p>	無
5	<p>風力発電、太陽光発電と相性が良いとされているエネファーム、エコキュート、ヒートポンプ等は低周波振動の発生源となり、影響範囲は広範囲に及ぶことがある。</p> <p>低周波振動の影響は、一般に広く知られていないところもあるが、耳鳴り、頭痛、動悸、振動感、けん怠感、不眠、うつ症状の原因になることも指摘されている。</p>	<p>低周波振動による健康被害の大きな特徴は、運転音（低周波音）によって生じる被害の個人差が大きいことが挙げられます。</p> <p>そのため、住宅街でエコキュートやエネファーム等を設置する場合は、販売事業者・設置事業者と相談し、近隣トラブルが起らないよう配慮する必要があると考えています。</p>	無

番号	いただいた意見	町からの回答	マップ内容の修正有無
6	<p>太陽光パネルの設置に伴い、反射光によるギラつき（眩しさ）や、反射熱による室内温度の上昇により、トラブルになっている報道を見たことがある。</p> <p>反射光が空気を温め、巡り巡って海水温上昇につながるのではないか。牡蠣や昆布、牛や馬（寒さには強いが暑さには弱い）への影響が懸念される。</p>	<p>太陽光パネルは設置箇所周辺の局所的な気温に影響を与える可能性はあるものの、その影響は限定的であり、広域的な気候変動には大きく寄与しないといった研究成果が報告されています。</p> <p>本町では再エネ導入を通じて、温室効果ガスの削減に取り組み、地球温暖化などの気候変動リスクへの対策を推進したいと考えております。</p> <p>○参考：環境省「環境研究・技術 情報総合サイト」 玄地裕(2003), 環境負荷型オフィスビルにおける地球・地域環境負荷低減効果の検証 https://www.env.go.jp/earth/suishinhi/wise/j/pdf/J03B5630.pdf</p>	無
7	<p>太陽光パネルの反射光によるギラつき（眩しさ）は、人間や家畜・野生生物（陸上動物から空中の鳥類まで）にとって、日常におけるストレスになるのではないか。</p> <p>また、このギラつき（眩しさ）が、車のドライバーの目に入れば、運転にも影響を与え、事故の原因になるのではないか。年齢に関係なく、目の弱い人、白内障気味の人等は特に運転しにくくなるのでは。</p>	<p>本ゾーニングでは、再エネ事業者に対する環境配慮事項を示しています。その中で、太陽光パネル設置に伴う反射光への対応・対策を含む「事業計画策定ガイドライン（太陽光発電）：資源エネルギー庁」、「太陽光発電の環境配慮ガイドライン：環境省」への適用を求めています。</p> <p>なお、近年は太陽光パネルの技術向上が進んでおり、最新式のパネルは水面程度の反射率（約2%）となっていることから、最新式のパネルを使用することで、ギラつき（眩しさ）を抑制できると考えます。</p>	無
8	<p>太陽光パネルの寿命が尽きた後の廃棄処理方法は、確立されておらず未定と聞く。将来世代にとって、エコやSDGs的だと言えるだろうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、太陽光パネルについては、将来的に大量廃棄の懸念があります。そのため、リサイクルを含む太陽光パネルの適正処理を進める取組が行われています。</p> <p>具体的には設置事業者による廃棄費用などの積み立て制度、太陽光パネルに含まれる有害物質や適正な処理方法の情報公開、パネルのリユース・リサイクル促進などがあります。</p> <p>○参考：経済産業省「太陽光パネルのゴミが大量に出てくる？再エネの廃棄物問題」 https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/taiyoukouhaiki.html</p>	無
9	<p>再エネ電力の売電価格が低くなり、原子力を再稼働するよう方針転換がされている。</p> <p>そのような中で、自然を破壊してまで、本当に太陽光パネルは必要なのだろうか。太陽光パネルで埋め尽くされた山や畑を見るたびに、悲しい気持ちになる。</p> <p>毎日目にする自然環境は生活の一部であるから、太陽光パネルがあることで生活が良くなったとは言えない。</p> <p>各地で規制の動きもある。推進するのではなく一度立ち止まり、規制についても考えて欲しい。</p>	<p>本ゾーニングでは、再エネと地域環境との共生を図るため、太陽光（小規模）の促進エリアについては、建物の屋根上や農地など、既に人工的に利用されている場所を対象としました。</p> <p>また、再エネ種別にかかわらず、大規模な森林伐採（0.5ha以上）を伴う場合は事業の回避が望ましいこと、国道44号線など、主要な幹線道路などから見えにくい設備配置とし、周辺からの視認性や景観との調和に最大限配慮することも求めています。</p>	無